

1. 第12回全国和牛能力共進会種牛の部

第6区総合評価群の取組

大分家畜保健衛生所
○児玉彬・(病鑑) 人見徹

【はじめに】

全国和牛能力共進会（以下、全共とする。）は、全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会です。審査は、雄・雌牛の姿・形の体型の良さなどの、改良成果を審査する「種牛の部」と、脂肪交雑等の肉質を審査する「肉牛の部」があります。

全国の和牛関係者にとって、この大会で優秀な成績を収めることは、和牛ブランド力の向上につながることから、最も重要な大会となっています（図1）。

また、全共は和牛の種牛能力、産肉能力といった能力及び地域等への斉一性の向上を目指しています。本共進会に取り組むことによって、将来につながる優秀な素材牛を生産発掘し、出品展示することによって、その成果を確認し、全共後に引き継いでいくことを主な目的としています。

今年実施された、第12回全共鹿児島大会は、「和牛新時代地域かがやく和牛力」をテーマとしています。

12回全共の出品区については表のとおりです。7区脂肪の質評価群、特別区高校及び農業大学の部が新設され、和牛の新しい価値観の創設と後継の環境整備を目標とする評価区が加わりました。今回管内で取組み本大会へ出品したのは種牛の部6区総合評価群の4頭になります（図2）。

ここで、第6区総合評価群について説明します。第6区は、種雄牛の、繁殖能力、哺育能力といった繁殖性に関与する種牛能力、枝肉重量や脂肪交雑種等の産肉能力を総合評価する出品区です。これら種雄牛に求められる2つの能力を唯一評価する区であり全共の花形とされています。この取り組みにより雌牛を生産することで、種牛能力と産肉能力をバランス良く備えた繁殖雌牛集団づくりにつなげます（図3）。

図1 全国和牛能力共進会とは

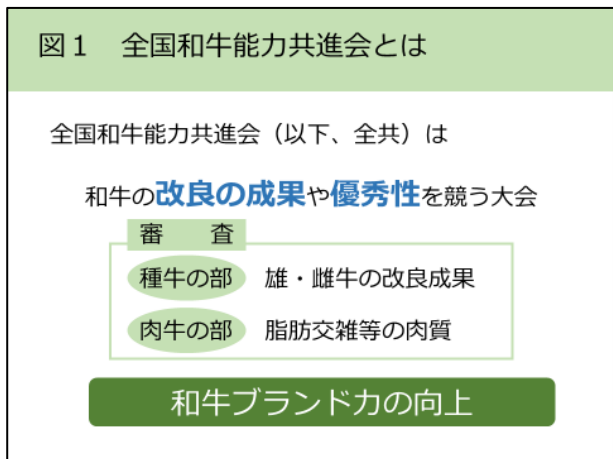


図2 第12回全共鹿児島大会について

第12回全共鹿児島大会は
「和牛新時代 地域かがやく和牛力」

別	種牛					種肉	肉牛		種牛
	1区	2区	3区	4区	5区		6区	7区	
名称	若雄	若雌 1	若雌 2	繁殖 雌牛	高等 登録	総合 評価	脂肪 の質	去勢 肥育	高校 農大
代表 頭数	1	1	1	3	3	4	3	3	1

今回、管内からこの第6区に出品した由布市和牛育種組合について説明します。本育種組合は7年前に由布市の育種改良を推進するために設立され、県内で3つめにできた組合です。由布市の繁殖雌牛は1300頭であり、他に育種組合のあるA地区の1/3、B地区の1/4となっており、規模は最小となっています（図4）。この規模が最小である由布市組合が全共の花の6区の県代表に選出され、本大会で優等賞を獲得する成果を上げたのでその取り組みを説明します。

図3 第6区総合評価群について

第12回全共第6区総合評価群は

種牛能力と産肉能力を総合評価する出品区

種牛能力 繁殖能力、哺育能力

産肉能力 枝肉重量、脂肪交雑

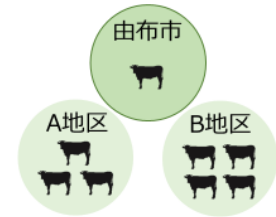
2能力を唯一評価 → 「全共の花形」

バランスの良い繁殖雌牛集団

図4 由布市和牛育種組合について

由布市和牛育種組合
(以下、由布市組合)

- 7年前に設立
- 県内3組合目
- 繁殖雌牛1300頭
- 規模は最小



第6区種牛の部の県代表に選出され、
第12回全共鹿児島大会で優等賞を獲得

【取り組み内容】

まず本県の全共にかかる組織について説明します。県では、令和元年7月に第12回全国和牛能力共進会大分県推進協議会（以下、県推進協議会とする。）を設立しました。家保は地区指導班に所属し、県推進協議会が決定した方針をもとに、連携をとりながら候補牛飼養農家への出品対策や巡回指導に取り組みました（図5）。

大分家畜保健衛生所の所属する県中央地区指導班の概要について、班長は家保所長であり、家保、局、JA、市町村の担当職員が班員となって実務作業を実施し、指導班会議、出品対策などに取組みました。

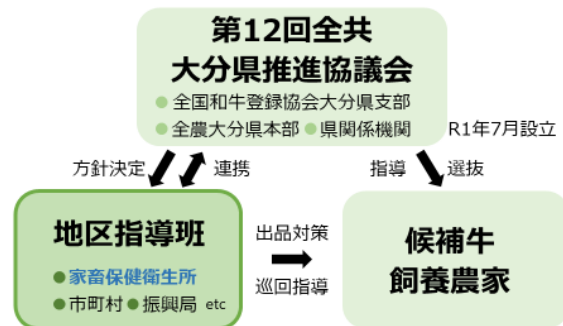
指導班会議の開催状況についてです。令和元年に指導班が設置されて以降、年に2回の指導班会議を実施し、出品牛対策や候補牛選抜等について協議しました。全共のあった今年はより頻繁に会議を開催し、農家状況の把握、巡回指導等について協議し方針を決定しました。

指導班で取組んだ内容について、「候補牛の造成」、「候補牛の育成」、「候補牛の選抜」、「候補牛の管理」があります。

まず、候補牛の造成について、県出品牛造成基本方針に基づき、6区の交配指定種雄牛「美馬桜」が決定されました。

ここで、「美馬桜」について説明します。「美馬桜」は、前回大会で臨んだ平福安号の後継産子で、母牛は産肉能力評価が高く、前回肉牛区で成果を發揮した「さくら」号の

図5 組織図



産子であり、体上線の強さや種牛性が高く、資質品位とも良好であったことから選定されました（図6）。

次に出品条件をもとに交配雌牛を抽出し、農家と協議のうえ定時授精法等を活用し人工授精を実施し、受胎状況について調査しました。その結果、管内では76頭の繁殖雌牛が抽出され、そのうち63頭に人工授精を実施し、38頭の受胎を確認しました。

次に候補牛の育成について、分娩状況について調査を実施したところ、30頭の子が生まれていることを確認し、その内訳は雄が12頭、雌が18頭でした。生まれた子牛について、12月、3月に調査巡回を実施し、発育状況等を確認しました。

次に、候補牛の選抜について、令和3年9月15日に1年前調査会を由布市しろやま検査場で実施し6頭に選抜しました。今年の5月に同じ場所で中央地区予選会を実施し、6頭の発育状況等を確認し頭数を維持することとしました。

そして大分県最終予選会が8月8日に玖珠家畜市場で実施されました。由布市組合から6頭、A地区組合から6頭、B地区組合から5頭の牛が審査を受けました。その結果由布市組合の4頭が県の代表牛として選抜されました（図7）。

最後に、候補牛の調教等について説明します。地区指導班は候補牛飼養農家に対し、巡回指導等を実施しました。巡回指導は、今年の4月以降月に1回候補牛飼養農家へ巡回し、体測、栄養度の測定を行い、飼料給与方法等について指導をしました。また、中央地区予選会終了前後から繁忙期の候補牛飼養農家について、週3日以上巡回し、引き運動を代理で行う等サポートを実施しました。また、最終予選以降に3回、6区の牛を集め全共鹿児島大会までの管理方法や調教方法について、集合指導会を実施しました。

これらの取り組みをまとめたのがこちらの表1です。令和元年に県推協が設立され、候補種雄牛について協議が重ねられました。そして1年後種雄牛が決定し、そこから2年強かけて出品牛の取り組みが進められてきました。合計3年強の歳月の費やし、第12回全共鹿児島大会へと臨みました。

図6 種雄牛の選定

みまざくら
美馬桜

現場後代検定中
令和4年度前期 検定終了予定

黒原6193 (84.0)
平成28年4月15日
生年月日 : 平成28年4月15日
高 度 : 152cm
体 重 : 1,190kg
基礎体温 : 38.1℃
体 高 : 149.5cm

平福堂
黒原5276(83.5)
(大分・黒毛)

新入種中歩出 :

さくら
黒原1417(84.0)
(鹿児島)

えみひめ
黒原1200(83.0)
(鹿児島)

身 高 : 152.5cm
さだすえ7
まっぴら
まっこ
安福久
もじろろ
えみこ3

第7系桜
種継57
安福(保明)
系桜(保明)
安福(保明)
種次郎
第20年度
神高種

B3(-), F13(-), CL16(-), MCSU(-), IARS(-)
CHS(-), FMA(-), MSHR(-), MOD(-), BAS(-)

図7 候補牛の選抜

- 大分県最終予選会
日程：R4.8.8
場所：玖珠家畜市場
(玖珠町大隈)

4頭が県代表として選抜

図8 候補牛の調教等

●巡回指導、個別支援、集合指導

項目	期間	頻度	備考
巡回指導	R4.4～	1回/月	体測・栄養度
個別支援	R4.5～	3日以上/週	引き運動等
集合指導	R4.8～	3回	管理・調教



巡回指導

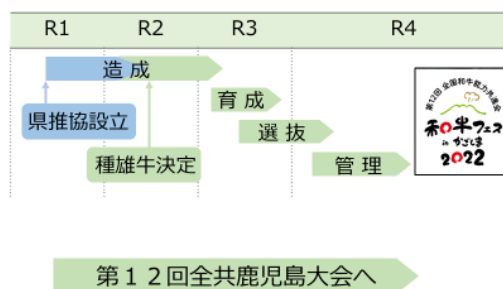


個別支援



集合指導

表1 取り組みまとめ



【成果】

今回の成果について説明します。候補雌牛の造成で、63頭の牛に人工授精を実施し、その内38頭の受胎を確認しました。その内18頭候補となる雌牛が誕生しました。A地区及びB地区はそれぞれ10頭、8頭の受胎であったので他2地区以上の候補雌牛を造成しました。候補雌牛は1年前調査会までに6頭に絞り込まれ、地区予選会で6頭のまま維持し、今年8月に実施された県最終予選会で4頭が県代表に選抜されました。他地区より候補雌牛が多く、選抜圧が大きかったことから県代表に選抜されたことが推察されました(表2)。

県代表に選抜された4頭の雌牛と3頭の肉牛で第12回全共鹿児島大会第6区総合評価群へと臨んだところ、種牛の部で5位、肉牛の部で8位をとり、総合順位で優等賞5席を獲得しました。畜産大国である鹿児島県、宮崎県はそれぞれ1位2位であり、候補雌牛が多く選抜圧が大きいほど成績が良いことが推察されました(表3)。

第12回全共鹿児島大会での大分県の成績が表のとおりです。1区で優等賞2席、2区で首席、3～5区で優等賞4席、7区8席、8区7席となり、参考にはなりますが総合順位も3席に相当し、鹿児島宮崎につぐ順位でした。

また、鹿児島県、宮崎県もいずれの区で上位にいることから、このことから選抜圧が成績に関与することが推察されました(表4)。

表2 候補雌牛の造成～選抜

項目	由布市組合	A地区組合	B地区組合
人工授精	63	28	—
受胎	38	17	—
候補雌牛	18	10	8
1年前調査会	6	7	5
地区予選会	6	6	5
県最終予選会	4	—	—

選抜圧により県代表牛に選抜される

表3 第12回全共鹿児島大会での成績

順位	第6区		
	種牛の部	肉牛の部	総合順位
1	鹿児島	島根	鹿児島
2	宮崎	鹿児島	宮崎
3	兵庫	岐阜	島根
4	岩手	宮城	長崎
5	大分	宮崎	大分
6	長崎	北海道	宮城
7	鳥取	長崎	岐阜
8	北海道	大分	北海道

総合順位で優等賞5席を獲得

【まとめ及び考察】

まとめ及び考察です。第12回全共において、管内の由布市育種組合は第6区総合評価群種牛の部の県代表として選抜され、鹿児島大会での健闘により優等賞5席を獲得し、豊後牛、おおいた和牛のブランド力の向上に貢献しました。

黒毛和種飼養頭数のすくない由布市が華の6区の県代表に選抜され、本大会で優等賞を獲得したのは、授精推進等の積極的な取り組みにより候補雌牛を多く生産したことによる選抜圧の増加が理由と考察します。

また、由布市育種組合はこの全共出品にむけた取り組みをとおし、種牛能力、産肉能力のバランスに関して全国レベルの繁殖雌牛集団をつくることができました。

今後、大分県が全共で畜産大国である鹿児島県や宮崎県と対等に戦い、更なるブランド力の向上を目指すには、県全体で全共に対し積極的に取り組み、候補牛を多く生産することによる選抜s圧の増加が必要だと考えます。その際の積極的な取り組みをとおし、県全体に優良な繁殖雌牛集団をつくり県全体の育種改良に貢献したいです（図9）。

表4 第12回全共鹿児島大会での成績

順位	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区
	種雄牛	若雌1	若雌2	繁殖雌牛	高等登録	総合評価	脂肪の質	去勢肥育
1	鹿児島	大分	宮崎	鹿児島	鹿児島	鹿児島	宮崎	鹿児島
2	大分	宮崎	鹿児島	宮崎	宮崎	宮崎	島根	島根
3	岩手	鹿児島	宮崎	北海道	北海道	島根	広島	岐阜
4	鳥取	沖縄	大分	大分	大分	長崎	岐阜	愛知
5	北海道	岐阜	鹿児島	鳥取	鳥取	大分県	鹿児島	群馬
6	鹿児島	宮崎	岐阜	長崎	岩手	宮城	鳥取	宮崎
7	青森	鹿児島	宮城	兵庫	長崎	岐阜	岡山	大分
8	岡山	長崎	長崎	宮城	宮城	北海道	大分	青森

選抜圧が成績に関与

図9 考察

- 大分県が鹿児島や宮崎と対等に戦い、更なるブランド力の向上を目指すには、県全体で全共への積極的な取組による選抜圧の増加が必要
- その積極的な取り組みをとおし、県全体に優良な繁殖雌牛集団をつくり県全体の育種改良に貢献

